

2008年9月2日

福田首相の辞任について（談話）

日本高等学校教職員組合
書記長 藤田新一

福田首相は、9月1日、突然辞任表明をおこないました。安倍前首相に続いて二代続けての政権投げ出しは、国会を軽視する無責任極まりないものであり、自公政治の行き詰まりを象徴するものです。

その背景にあるのは、私たちがつくってきた国民の世論と運動が政治を動かすという今日の激動する情勢です。いま、国民が求めているのは、首相の交代でなく政治の中身の変化です。

後期高齢者医療制度の廃止、若者を「使い捨て」にする労働者派遣法の改正、原油と穀物高騰による生活危機の打開、貧困と格差の拡大をもたらす「構造改革」路線から経済政策の軸足を「大企業から家計に移すこと」であり、海外派兵や米軍基地強化などアメリカ言いなりの政治の転換です。

日高教は、直ちに国会を解散し、総選挙で国民の審判を仰ぐことを強く要求します。私たちは、国民が主人公の政治を実現し、憲法を守り生かし、修学と進路を保障し高校生・青年の未来をひらくために全力をあげて奮闘するものです。

以上

本日のマスコミ各紙は、社説で「またも無責任な政権投げ出し」（毎日）、「早期解散で政治の無理正せ」（朝日）、「解散戦略描けず行き詰まった福田政権」（日経）を掲げ、「突然の政権投げだしは無責任の極みである」（産経）、「異常な事態である」（読売）と報道しています。ここにも国民の世論が大きく反映しています。